平成２９年度厚生労働科学研究費補助金
（政策科学総合研究事業（臨床研究等 ICT 基盤構築・人工知能実装研究事業））
分担研究報告書

臨床効果データベース事業におけるデータ出力方法の検討に関する研究

研究分担者　安田　聡　国立循環器病研究センター・副院長・心臓血管内科部門長
斉藤　能彦　奈良県立医科大学・循環器内科・教授

研究要旨
日本循環器学会の事業である「臨床効果データベース」では、循環器領域で特にその重要性が指摘されている疾患を抽出し、医療の質とその妥当性を検証するため時間軸を念頭においたデータベースである。心不全は再発を繰り返しながら心機能低下・死亡へと至る。心不全の増悪による再入院をいかに起こさないようにするかが、患者の生活の質を維持するために必要であり、その実態を DPC データ(JROAD-DPC；2012-2014 年度 3 年間)をもとに解析したので報告する。

A．研究目的

日本循環器学会の事業である「臨床効果データベース」では、循環器領域で特にその重要性が指摘されている疾患（心不全など）を抽出し、医療の質とその妥当性を検証するため時間軸を念頭においたデータベースである。心不全は再発を繰り返しながら心機能低下・死亡へと至る。心不全の増悪による再入院をいかに起こさないようにするかが、患者の生活の質を維持するために必要であり、その実態を DPC データ(JROAD-DPC)をもとに解析した。

B．研究方法

循環器疾患診療実態調査（日本循環器学会主導, 全国循環器専門医研修施設・研修関連施設 1335 施設）の枠組みを用いて、診断、短期予後、年齢、性別、合併症、重症度、使用薬剤などが含まれる DPC（Diagnosis Procedure Combination；診断群分類包括評価）情報を収集した「DPC データを用いた心疾患における医療の質に関する事業」(JROAD-DPC)を行った。

（倫理面への配慮）
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針を遵守し研究を遂行する。

C．研究結果

2012-2014 年度の 3 年間 DPC データを解析、心不全患者延べ 216,157 例(M; 75±13, F; 81±12 歳)を抽出した。本邦では 3 年間で 20%が複数回の入院（再入院）をしているという実態が明らかになった。

D．考察

これらの結果は既報のレジストリ研究 Chronic Heart Failure Analysis and Registry in the Tohoku District（CHART）-2 研究(N=4,682)での 3 年間観察中 17%の再入院という結果も概ね一致するものであった(Circ J. 2015;79:2396-407)。

E．結論

「臨床効果データベース」において、縦断的データベースとして心不全をモデル疾患とした情報収集体制を整備する。得られたデータは DPC データ、レジストリデータと比較検証していく。

G．研究発表

1. 論文発表　なし
2. 学会発表

（1） 第 82 回日本循環器学会学術集会シンポジウム 11（2018 年 3 月 24 日；大阪市）「わが国の循環器医療提供体制の課題と展望」
The Current Status of Cardiovascular Medicine in Japan; Insights from JROAD and JROAD-DPC Database

H．知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得　なし
2. 実用新案登録　なし
3. その他　なし